令和６年度第２回第四次紫波町観光振興計画策定懇談会　会議録

１．日　　時　　令和６年11月29日（金）13時30分～15時00分

２．場　　所　　紫波町役場会議室301

３．出席者等　　出席委員8人

髙橋栄悦委員、濱田織人委員（オンライン参加）木戸章子委員、山縣春雄委員、石幡信委員、

佐羽根博一委員、澤里亜也子委員、菊川佳代委員

欠席委員1人

石川ペギー委員

事 務 局　　紫波町　産業部長（商工観光課長）　長谷川崇

　　　　　　　　紫波町　商工観光課副課長　作山文人

　　　　　　　　紫波町　商工観光課商工観光係長　須川翔太

　　　　　　　　紫波町　商工観光課商工観光係主任　髙橋侑真

　　　　　　　　紫波町　地域おこし協力隊　本田道也

４．経　　過

１　開会

２　議事

（１）進捗報告について

（２）第四次計画骨子について

（３）意見交換について

３　その他

４　閉会

主な発言は以下のとおり

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| （１　開会）  作山副課長 | ： | 皆さん、お忙しいところお集まりいただきましてありがとうございます。  ここで紹介したい方がいらっしゃいます。  本田道也さんです。12月1日付けで、地域の主体として観光担当やっていただくことになっております。 |
| 本田道也氏 | ： | はじめまして。本田と申します。よろしくお願いします。  今ご紹介にあった通り、来週の12月1日付けで、こちらの方で地域おこし協力隊員として働かせていただきます。  今日の会議に関連したところで言うと、私は、大学がアメリカにおりまして、時間が経ち、ブランクはありますが、英語に関しては多少できるところがありますので、今後、何か英語で情報を発信したいなど要望があった時はお声がけいただければ、できれば協力させていただきたいと思ってますので、よろしくお願いします。 |
| 作山副課長 | ： | では、ご案内の時間となりましたので、第2回第四次紫波町観光振興計画策定懇談会を始めさせていただきたいという風に思います。  本日は、石川さんが都合が合わなくなり欠席です。濱田さんがオンラインで参加ということとなっております。  よろしくお願いいたします。それでは、早速ですが、議事に入りたいと思います。  前回同様、髙橋栄悦委員長に議長を務めていただきたいと思います。  よろしくお願いいたします。 |
| （２　議事）  高橋委員長 | ： | 今日は大変ご苦労様でございます。2回目ということですが、前回の開催は、5月3日ですから、もう6ヶ月経ったわけでございます。また久しぶりということでございますが、是非また今日もご忌憚のないご意見をいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。  それでは、早速議事の方に入らせていただきますが、よろしいですか。  それでは、次第によりまして、（１）進捗状況について事務局の方からご説明を願います。 |
| 事務局 | ： | 進捗報告について説明。 |
| 髙橋委員長 | ： | 進捗状況の報告ということでございまして、今まで色々な調査課題抽出の調査等を進めたようでございます。  これについて、皆様方からご意見を伺いたいと思います。  状況調査ということですので、把握、状況調査、皆さん方もおおよそ同じような考え方があるのかなとは思いますけども、感じてることもあるのかなと思います。  また、それ以外に、この調査のほかにいろんな意見がもしございますれば、お話をいただきたいと思います。  こういった皆さん方の意見をいただく時間を長く取りたいと思いますので、いかがでしょうか。  どなたかご発言をいただければと思います。 |
| 石幡委員 | ： | 今の報告を聞いて、大体7割方は日頃我々が感じていることそのままです。モニターとかこういう調査をしなくても、日ごろからそれに関わっていれば嫌でも感じること。それを10何年間言い続けてもほとんど変わってない。変わらない。その原因は何かというとこが問題なのです。新しいことといえば、文化の違いによってトラブルが起きるかもしれないから、前もって準備しなければならないということは、今まであまり意識してこなかった。  国内の観光をベースとして考えると、それすらきちんとできていないというのが現状です。  例えば、紫波中央駅へ行きますと、さきほどの報告書にありましたが、オガールの地図がありません。「オガールの、ここ行きたい」と言われた時に、駅に薄っすらとある写真で説明しています。  それから、看板もそうです。その場の場当たりで、その時の予算で適当に作っているから同じようなものばかりです。特色がない。そういうようなことになってる。また、紫波中央駅の管理自体が、都市計画課で、観光側から意見言えなません。それが現実です。物を１つ動かすにも、いちいち許可を得なければならない。そういうような状況からして、紫波中央駅は観光としては全く使いものになりません。私たちが続けてやっていて改善したのはロッカーだけです。ロッカーと貸し自転車です。自転車はオガールに移ってしまった。  そのような面で、ほとんど、紫波中央駅は変わってないというのが現状だと思います。 |
| 髙橋委員長 | ： | ありがとうございます。非常に適切な辛口のご意見いただきました。  あと、他にどうですか。普段感じていることなどをお話いただければと思います。 |
| 菊川委員 | ： | 調査の結果もそうですが、QRコードというのか、二次元コードというのが正しいのか分かりませんが、コードさえ作ってポスター等に貼っておけば、その先のデータは現地に行かなくてもどんどんアップデートできるので、ポスターを張替える必要もないし、見る方に古い情報が伝わることもないし、お金がかかることもないのではないかと思うので、ポスターを作られる時にQRコードを付けておいて、その先のこっちの方で更新していくというようなやり方がいいのかなと思いました。  神社関係ですが、よく遠野市で、民話の魅力を伝えようとしても、なかなか外国人の方に伝えづらい。言葉が伝わらないから、方言を使って面白おかしいお話をしてくださいますが、そういうのもなかなか外国人の方には、わかりにくいところがあるそうです。なかなか見ただけがわかりにくいので、だからこそ、QRコードが貼ってあるものがさりげなくどこかにあって読むことができれば、建物を壊したり、神社の何かを壊したりすることなく実施することができるのではないか。作らなくても、その場でなくても、名刺サイズのカードを置くのでも良いのではないかと思いました。  あと、2次交通の掲示やコミュニティ交通が使いにくいみたいなところもあるかと思いますが、しわまる号ができて、今、夜の実証実験をやられています。私だけだったら申し訳ないのですが、実際に私が何回か利用した時に、全然予約が取れないことや、前の日に予約しようとすると10時に乗りたいのにもう3時にしか予約が取れないということもありました。私は、紫波中央駅の近くに住んでいますが、日詰商店街に行きたかったのに、古館の方を迂回されてしまい、予約したい時間に予約できず、予約したくない時間に乗って、迂回されて、全く予定通りにいかない。乗り合いなので、それは致し方ないとはもちろん思いますが、なかなか予約が取れなかったり、行きたい時間に予定が立たないというのがいいのかなと思ったんで、2次交通のデマンドを作った交通の計画の見直しの際に、ヒアリングをしていただいて、意見をひろっていただけると嬉しいと思います。 |
| 石幡委員 | ： | 関連して、しわまる号は確かにそうなんです。  混みあっている時はなかなか来ないです。ただ、逆に言うと、今のタクシーの状況は、駅で案内をやっている時に、タクシーに乗りたいという方が1時間待ちという状態です。ヒノヤタクシーしか、ほとんど動くことができないようです。そうすると、しわまる号を使った方が便利です。そのことは、お客さんたちにはほとんど分かっていないので、観光案内をやってる時には、そのことをお話して、しわまる号を使っていただいたりしています。便利ですが、乗り合いなので不便なことはあるが、今の紫波町内のタクシーよりは便利です。もうちょっとここを整理する必要があるんじゃないかと、日頃の案内やっていて感じています。  それからもう1つ、QRコードは、すでに標柱（史跡の標柱）に観光交流協会でやっています。全部にはまだ付いておらず、一部でしかないですが。英語版の原稿もあります。ですから下地は整っています。問題は、それを知られてないこと。おそらく役場職員もほとんど知らないでしょう。そういうことが今までの観光の進め方でした。 |
| 髙橋委員長 | ： | 傍目で感じている部分もあるかと思いますので、ぜひ忌憚なくお話をいただきたいと思います。  いかがですか。その他の委員の方。はい、お願いします。 |
| 佐羽根委員 | ： | 「ニーズ」は調査されたのでしょうか？資料に書かれてある「ニーズ」とは、何のニーズなのでしょうか？調査はすごくわかった部分はありますが、来訪者の方とか、町内のニーズは何でしょうか。何をニーズとして来られてるのか？そこがないと、いろんな調査結果等々をどこで結びつけるのか？ということがあると思う。  たぶん、次のステップなのかなと思ってはいますが、そこがないといけない。課題感はすごくまとめられているので、すごく十分それはわかります。そのニーズとはなんなのかな、誰のニーズかなとか、そこを、深掘っていくといいのでないかと思います。  あと、6ページの左側のところで「価値観」とありますが、ここもやはり見方とか考え方で価値観は変わってくると思うので、やはり今あるものを変えていく、ものを変えるのではなく、考え方を変えるというのはすごく素晴らしいことだと思うので、ぜひ論点を絞って価値観変えていくようなことで取り組んでいければいいのではないかなと思いました。 |
| 高橋委員長 | ： | はい。今答えられることはありますか。  事務局でのニーズというか。 |
| 事務局 | ： | ニーズについては、調査した中で、今回、親子の遊び場アンケートなどにもあったように、子どもについて、遊び場、遊ぶ環境や体験の場が不足しているとか、そういうところが必要にはなっているけれども、まだそれがこちらの方で対応しきれてないなど。また、特産品が足りない、あとはベジタリアンやハラルなどの知識が不足しているとか、そういうところのニーズに答えていくようにしていかなければならないというところで、調査の結果からこれを書いたところでございます。 |
| 高橋委員長 | ： | はい、よろしいですか。まずは、果たして今の答えでいいかどうか。 |
| 石幡委員 | ： | ニーズということで、「自然体験」についてですけが、意外と、紫波町は子どもが遊ぶ場所がありません。  花巻市の広域公園に結構行っているようです。あそこまで行かなければいけない。この辺は何が問題かと言うと、クマですね。城山に行く時もクマが出ていけない。今もウロウロしている状態。この間はサルが出たということです。  住宅団地の中に公園はありますが、ボール禁止、何々が禁止、騒音だ、ということで周辺がダメだというようです。  そうすると、子どもたちが遊ぶ場所は普段学校の校庭しかありません。  それが今の状態。そうすると、休みの日に家族で広域公園まで行かなければいけない。公園なら公園らしく安全に遊べる場所にならなければいけない。城山でも。  そうすれば、城山も日頃から遊んでいるような、使われ方をしていない。当然です。クマが出るから。そういうところを細かく見直さないといけない。田舎だからたくさん遊ぶところがあるように見えるかもしれませんが、実際にはありません。  これから逆に、稲刈りが終わるので、田んぼが遊び場になる。 |
| 髙橋委員長 | ： | 今のお話しのように、確かに公園などはたくさんあります。私も何度となく指摘をされましたが、例えば桜祭りを行っても、クマが出て一切イベントができなかったという時期があり、どう考えていますか？と聞かれても、これはなかなか解決策がありません。場所はあるけれども、そういった課題があるということは事実です。その辺もまた忌憚なく、解決策というのではなくても、ご意見をいただきたい。昔は城山で、親子で寝転がったり、県外から誰かお客さん来た場合に、一緒に楽しんだという記憶はありますが、なぜかしら急にクマ、それから、イノシシ、そして先ほど出ましたけども、猿が出てきてるということです。危険は回避しなければならないので、なかなか難しい問題だと思っています。  はい。次にまたいろんな意見を伺いたいと思います。  いかがですか。 |
| 澤里委員 | ： | 親子で楽しむ紫波町の遊び場アンケート調査について、Instagramで情報を発信したところ、アンケートに答えてくださった方々が「私も拡散します」と、結構拡散していただいたということが関心度の高さを示していると感じました。  「紫波町は遊ぶところがないよね」という声がやはり正直なところがあります。「子どもを冬に外で遊ばせたいけれども、遊ぶ場所って結局ないよね」という話になり、雫石町にあるの乗り物公園もシーズンが終わってしまいますし、それこそ花巻の広域公園も冬場は閉じてしまいますし、やはり冬でも体を動かす場所が欲しいというのが正直なところのご意見が結構多く、個人のホームメッセージの方でいただきました。以上が今回のアンケートの感想です。  また、観光に関してですが、観光で、紫波町にはこれがあって、観光客が行ったらこんな体験ができますよというこが可視化されてない。行ったらどんな体験をできるということが傍から見えないというところが正直なところあるのではないかと感じています。Instagramだと割といろんな観光地の発信されてる方と繋がってはいるんですけれども、その時に、市町村の方で、こういうツアーがあります、紫波町で言えば、例えば「城山公園に行って、志和稲荷に行って、ここに行ってということを、しわまる号で回りました」というような、そういうモデルコースを体験してる映像をInstagramで流すというやり方が主流になってきてるという感覚があります。YouTubeも同じです。そういうものを見てお出かけしたいという方がいらっしゃいます。行った先にどんな未来があるのかということがわかるといいと思います。 |
| 髙橋委員長 | ： | はい、ありがとうございます。いろんな、楽しみ方があると思いますが、それが可視化されてない。確かに今の方々は、そうなのでしょう。新聞テレビ等ではないでしょうから、そういった方法を、これから考えなければいけないと思いますが。  はい。あと、ございませんか。では、お一方ずつお願いします。 |
| 山縣委員 | ： | 観光振興なので、ここにもありますけど、ラフランス温泉含めたあづまねエリアのリニューアルと言いますか、言い方はいろいろあるでしょうけれども、11月9日の岩手日報に掲載されました。我々はラフランス温泉館で、核となる施設でやっているわけですけが、もちろん先ほどから出ている子どもの遊び場であるとか、様々な課題はたくさんあります。それからもう1つは、今、宿泊施設のインバウンドという問題があります。インバウンドに関しては、町としてインバウンドを呼び込む取り組みをするのか、それとも外国人観光客が来た時には困らないようにするのかで、戦略が変わってきます。観光をやるのはやはり外貨を稼ぐためだと思っていますので、ラフランス温泉館を核とした施設の一体化が求められていて、私どももそうしたいと思っています。町内に向かっては、ラフランス温泉館だけの話しをしますがラフランス温泉館は町民にとっては誇りの持てる施設、それから町民にとって遊び場があるのが良い、住むのに困らない、温泉入るのも困らない、いわゆる町外に出ないようにするための施設にしたい。  外に対して言えば、1回は来てみたい町民の人が、うちの町にはこういうのがあるから1度来てみないかというような施設にしたいというのが1番のコンセプトです。  そうなった時に、ちょうどこのモニター調査も、これで終わりかどうかは分かりませんが、今回の調査は多分外部に向けてのものだと思いますので、外から来る人に対して、外から来る人がどう見てるかということですよね。であれば、お金の問題とかあるとは思いますが、もしやるのであれば、今度は観光会社とか実際商品を造成する人たちが見た場合にどうなのかというのも必要なモニターであるとは思います。一般的に専門家ではなく、実際に、観光地を廻って、観光のツアーを作ってる人たちにモニターをしてもらうと答えはまた違ってくるのではないかと思います。  交通の便に関しては、さきほどから色々話しがありますが、やはりタクシーが1時間待ちですとか、宿泊の方も朝8時に予約したいと1ヶ月も2ヶ月も前から電話で問い合わせをいただく時に、「その日にならないと分からない、ひょっとしたら捕まらないかもしれません」と答えるとお客様は来ません。不便です。  我々は今、毎日予約制ですが、盛岡駅からラフランス温泉館まで無料バスを出しています。3日前の予約制で、4～5人ですが乗られます。  1ヶ月で言えばたかだか100人かもしれませんが、それはやろうと思っています。ですが、今度は町内で動く術がありません。先ほど言ったように、電話で問合せされても、タクシーはその日にならないと分からないということでは、お客様の方では計画が立てられません。 |
| 髙橋委員長 | ： | 今も紫波中央駅からバスはありますか？ |
| 山縣委員 | ： | 止めました。かえって紫波中央駅からラフランス温泉館への方が、需要がないということがわかりました。  あとは「途中で降ろしてくれ」という方がいっぱいあり、結局こちらのサービスが悪いというように言われてしまう。サービスをやっているのにクレームつけられるっていう、1番バカくさいので、やめました。  7～8万円ほど1カ月にガソリン代がかかりますので。途中だから降ろしてくれ、というようなことがたくさんありましたので、盛岡駅からにしました。 |
| 髙橋委員長 | ： | 色々な挑戦と言いますか、色々な試みはしているけれども、それがさまざまな課題がまた増えるというか。前は、岩手県交通さんのバスがあったのですが、なかなかそれもこういう時代になって少なくなった、あるいは無くなったと。  なかなかこの2次交通っていうか、紫波中央駅まで来れば紫波町の中心にいろいろなアクセスができるというようなこともまだわかってない方々が多いなと感じます。  はい、木戸さん、いかがですか。 |
| 木戸委員 | ： | うちの宿に来るお客さんに関してしかわからないですが、2次交通で来る方は100人のうち2人。ほとんどレンタカーでいらっしゃいます。ある意味いろんなものが分散していることは仕方がないし、それをいつでも予約して、そこに連れて行ってもらうようなシステムを作るのは大変なお金がかかるので、レンタカーで来るようなお客さん向けに観光を組み立てていくのはどうでしょうか。  どれぐらいお金がかかるかわからないような、そういうところにはお金をかけずに、もっとレンタカーでいらっしゃる方を対象に、例えば酒蔵巡りなどは特に場所が分散しているわけですし、そういう考え方の方が良いのではないかと思います。「あんな山の中に、なんで泊まりに来るだろう？」と私も思いますが。  何人か外国人がおっしゃっていたことですが、「東京、大阪、京都のように英語表記がないのがいい」そうです。そういう意見もあるようです。例えば私たちがハワイに行って、全部日本語でありがたいけれど、外国行った気がしない、というようなこと。これは色々調査されていて逆の意見になりますが、そういう考え方もあるようです。紫波町の田舎らしさを尊重しつつ、情報には便利にアクセスできるというようなことを頭の隅っこに置いておきたい。ただベタベタ、ベタベタと英語、韓国語、中国語表記があっていいというわけでもないのかなと思います。ただ、知りたいと思った時に深くアクセスできるようなことを考えてあげると良いのではないかと思いました。  ほとんど外国人はスマートフォンで情報を得ながら来ます。Googleマップで大体食べるところなどを調べます。10年東京に住んでるアメリカ人が泊まった時に、「岩手県はGoogleマップ上の情報が少なすぎる」と言っていました。そういうツールで探しながら、みんな次はどこで食べるかということを見るので、「私はどんどん追加してるんだ」そうです。勝手に追加してると。  そこが外国人が旅行するときの始まりだということです。なかなかこのQRコードにたどり着くまでには、たくさんの段階があるというか、そういうツールを基本的に使っているということを意識するということ。  今年、うちの裏山の山菜に興味をすごく持った外国人が3組いらっしゃいました。今も色々付き合いが続いています。山のものをご案内して、取らせて料理をするという体験をしてもらったことがあったのですが、そういうことにものすごくグッとくるようです。外国ではあまりないみたいです。山自体が日本のように豊かではないからのようです。そういうただ生えている山菜を採って美味しく食べられるということにものすごく感動したお客さまが、お客様の人数が少ない中で3組いらっしゃいました。その方たちは1つ1つ案内したら全部メモを取ります。シドケとかワラビとか。後から調べるのかもしれないません。こういうところにも1つヒントがある。それもただ生えてくれているわけですから。やりようによっては、準備することを絡めるとか。そのような料理というのは、イコール、ベジタリアンであったり、ハラルでもあるわけです。  そういう意味で、全体のムードとして、自然なもの、キノコ、山菜、そういうものというのも、これからのサスティナブルな世の中というものを目指す世界のトレンド、また、もうそうしなければならないような状況の中で、先取りする1つの、きっかけになるのではないかと思いました。 |
| 髙橋委員長 | ： | はい、ありがとうございます。実際に、いろんな案件に深い思い入れがある。  はい。あとは、  濱田さんからの意見いただけますか。 |
| 濱田委員 | ： | ここに対しては、今言ってた議論について、ほぼ似たことを考えています。そこは皆さんの発言で出てきたと思います。ここの方面で話した方がいいとというものがあればお話しします。 |
| 髙橋委員長 | ： | はい、わかりました。皆さん、ご発言物足りないというところがあったらば、付け足して発言することはないですか。  はい、どうぞ。 |
| 菊川委員 | ： | 2次交通についてですが、しわまる号は1行程しか予約できないために、「巡る」ことができません。それが、私は個人的には不便で、行っても帰りの予約を一緒にできません。帰ってこれるかどうかわからないということになるので、多分観光には向いてないと私も思っています。レンタカーの方が良いのではないでしょうか。イメージは、「すこやか号」がなくなったので、大きな古いバスをたくさん走らせておくよりは、コストとしてデマンドで行き先を自由に選択して乗り合いで運営するというのは、コストも抑えられるし、町民のニーズに合っている、というのがしわまる号なのだと思います。  もちろん旅行で使う方もいるかもしれませんが、ここから野村胡堂記念館等に行っても、帰ることができるか分からないのであれば、使わない。  裏技で、2人いればaからbは私が予約して、同行者がbからcを予約して、ということは出来るかもしれない。どちらにしても1人片道キップしか取れないという状況です。用事がある時に何時間後かに帰るのであれば予約を取れるかもしれませんが、そのような状況が今の実態だと思っています。 |
| 石幡委員 | ： | 今、小学生も使っています。古館の学童を利用している子どもたちがバスケットに通う時も予約して、しわまる号で行きます。  ただ時間通りに来ない。 |
| 菊川委員 | ： | そうそう、そうですよね。 |
| 山縣委員 | ： | 紫波中央駅からラフランス温泉館の送迎バスを運行していた時も、結構小学生に使われました。お母さんにこれに乗れと言われたと言って。 |
| 石幡委員 | ： | 紫波中央駅前からラフランス温泉館へ行く方には「しわまる号を使って」と案内しています。 |
| 髙橋委員長 | ： | はい、本来のしわまる号そのものは、町民の用事足し用です。それが観光まで伸ばしてですね、それが果たしてニーズに合ってるかどうかは別問題かなと思います。充実できるのであれば、活用することはやっぱり、やぶさかではないかもしれませんが、そのためのしわまる号にしていくというのは、さきほどの木戸さんのお話しにもありましたが、逆に面倒になってくる可能性があります。はい。あとは、何かご意見ございませんか。 |
| 石幡委員 | ： | 少し関連しますが、レンタカーや車で来られる方の案内所がないものですから、とりあえずオガールに来られるようです。オガールに行って、何もないので紫波中央駅に来るという方が結構います。紫波中央駅に我々ガイドがいた時に、案内を請われます。考えてみると、車やレンタカーで来られる方に対する案内所がありません。そういう方も結構いらっしゃる。それから、ここまで来たけれど、具体的な場所がわからないとかという方もいらっしゃいます。 |
| 髙橋委員長 | ： | はい、ありがとうございます。この部分についてはどうですか。大体お話つきましたでしょうかね。  いかがですか、今の話聞いていて。 |
| 佐羽根委員 | ： | そうですね。仕組みは今後だとは思いますが、町民の方が使うものと来訪者が使うのは一緒なのではないかと私は思います。  ですから、きちんとお金を払ってもらうということはやがり大事ですし、そうあるべきなのではないかと思っています。  日本もいずれライドシェアが導入されてきた時に、この2次交通の問題というのは、「いつの話してたっけ」というような、良い時代が来るのではないかなと思います。今回、岩手県でも岩泉町と田野畑村で各社1台ですが、導入された。こうやってライドシェアの気運が動いてきてる中で紫波町も手を上げ、これはタクシー会社さんが、手をあげなくてはいけないとは思いますが、いずれそういう時代が来るのではないかなと思っています。それに向けて何をするかということを考えた方が良いのではないかと思います。  何が言いたいかっていうと、来訪者というのは、住民の方々のところに足を踏み入れることなので、そこはやはり同じものを使うということを考えると、やはりちゃんと対価を払って使ってもらう、住民の方も使うということで、発想を変えてもいいのかなと思ったところです。 |
| 髙橋委員長 | ： | はい、ありがとうございます。よろしいですか、この件については。  第4次観光振興計画の骨子について説明してください。 |
| 事務局 | ： | 第4次観光振興計画の骨子について説明 |
| 髙橋委員長 | ： | はい。今お話のように、第3次から第4次に変わってくる場合に、どのように進めるかということだと思います。まず1つ気になるのは、紫波町の中学生議会があったということで、新聞等には出ましたが、部長から何か発言ありますか。 |
| 長谷川部長 | ： | 中学生議会では18人参加されて、観光だけの質問だったわけではありませんが、産業関連の質問が8件ありました。若い世代の皆さんは、ＳＤＧｓに大変興味があり、そちらの方面からの質問が多くありました。その中で、観光についての質問がありました。「具体的なツアーは何ですか？」という再質問をされ、即答できず「今度懇談会があるので、皆さんにあなたのご意見を披露して考えていただきます」と回答しました。 |
| 髙橋委員長 | ： | 紫波町内をね、名勝ツアーで巡るということを、観光交流協会で、石幡さん方の「しゃ・べーる」さんに協力をいただき、実施をしました。結構話題性と言いますか、人は集まりました。コロナ禍の時期にちょうどやりました。酒蔵巡りですとか、そういったものには定員人数以上の応募がありました。単価も安いというようなことで、再度検討しようということだったのですが、やはり経費が結構かかりますので、果たしてその金額でそのツアーに参加してもらえるかどうかということがりました。いかがですか、ツアーについては。 |
| 石幡委員 | ： | あの時のツアーは補助金があったので、格安ということもあり、それで大きく宣伝ができました。その宣伝にも補助が出るというものでした。普段我々がじゃあツアーを組もうかという時、宣伝費はありません。どうやって宣伝するかというのは、正直な課題です。もう1つは、2回ツアーをやりましたが、2年間コロナ禍で、その反省をやっていません。その関係業者、関係先みんなで集まって、あれはどうだったのかという反省をやって、どのくらいの値段設定ならお客さんが申し込むだろうとか。仮に今やろうとすると、例えばある私が今ツアーを組もうとすると、まず資格がないので、バス会社と提携して、そこの資格で企画を組みます。そして各訪問先など全部に根回ししなければならない。これが大変です。どこか1か所に行けば、酒道業界は全部大丈夫、食堂関係は大丈夫ということができていれば、すごく組みやすいです。それがなかった。それで、しばらく、継続でツアーをできなかったのですが、今は根回しして、ようやく、来春からやってみようというところまで来ています。なかなか難しいです。やはり最低マイクロバス20人乗りで移動する場合だと、15、6人は集めなければならないので、そこが集まるかどうか。30人乗りの中型ですと、やはり30人近く集めないとバス車両を利用する料金が集まらない。  そういう基礎的な部分ね、どうしてもできてないというのは大きなネックです。そういう意味では、補助金を活用してどうだったか、実施した反省をきちんといなければならない。 |
| 事務局 | ： | そのツアー関係のところは、確かに今までの反省も踏まえた上で新しいことを考えなければいけないと思ってるいます。あともう1つ、委員にもなっていただいてる佐羽根さんのところの会社は、まさにそういった観光の企画だったり、そういったところは得意とされてると思いますので、ぜひ今後も色々お力をお借りしたいなと思っているところです。 |
| 濱田委員 | ： | よろしいでしょうか。紫波町に訪れて数年経っていますが、関係人口が非常に多い自治体だなと個人的には思ってるいます。他の自治体に比べて。そこと観光を繋ぐ、なにかが1個が足りてないと感じています。来たい魅力がないかというと、そうでもない。来ると結構ある。でも、来る人、来る力がないと出てこないというようなところがある。インバウンドだと、逆にこういういわゆるアピールする力があって、だからいろんなところで、どんどん、どんどんお話が繋がった人が訪れてくれる。そういう、もちろん観光としてのツアーなど大きな経済を動かしていくものは当然必要ですが、そういう自分の力で乗り越えて、繋がる人たちに対してのケアあると良い。大きなものだけに頼ってやるやり方は、大きなビジネスだと、それがなくなると、大きな被害が出てきます。大きな被害になってしまうので、中庸のところも準備できていた方が観光としてはいいんじゃないのかなと思います。紫波町の持っている山菜といったような資源は、ＳＤＧｓの話しにも近い領域にもなってきますので、そこのあたりが大事ではないかと思います。 |
| 髙橋委員長 | ： | はい、ありがとうございます。もし意見がありましたらば中に入っていただいてお願いしますとお伝えください。 |
| 佐羽根委員 | ： | 本当に。言葉尻を責めるわけではないですが、例えばこの資料の中の「若者」とは誰ですか？という話をしたいなと思います。  多分「若者」と言った時に、ここにいるメンバーだとそれぞれ頭に描く像が違うのではないでしょうか。もしビンゴがいたらすごいと思います。まずそこを整理して定義して議論しないと、おそらくフワッと終わっていくんじゃないかなという感想です。  今、濱田さんからもあった通り、関係人口から足を運んでもらう、観光に繋いでいくと、「なぜ行くのか」ということも絶対必要になってきます。なぜ行くのだろう？なぜ来てくれるのだろう？と、やはりそこをきちんと考えなくてはいけないだろうと思っています。  やはり資源と関係人口の人がいるというとこであれば、その人たちの「行く動機」、やはりそこが大事ではないでしょうか。  そこが、「若者」と言った時に、「若者」とは誰か？そこはきちんと汲み取るべきではないでしょうか。そこで、では「ニーズ」、さきほど話しが出たところですが、何を望んでいるのか？なぜ行くの？というところがやはりないと動かないと思います。  そこがあって、「不便だ」などという次の言葉が出てくるのではないかと思います。まず、なぜ行くのか？行きたいと思うところ、その行きたいと思う人、「若者」とはどんな人なのかなというところを議論すると面白いのではないかと思いました。  内容とかについては、もちろんこの「若者」というのが定義された時に、その人たちが欲しいものが多分ツアー内容になってくると思いますので、ここで申し上げることは、今の段階では情報が整理されていないのでなかなか言えないところであります。もしツアーということで、サービスということで考えるならば、そのサービスを立てる上でのしっかりしたロジックがあるので、きちんとそこをしっかり抑えるべきです。まして、観光については、先ほど言った通り、紫波町の観光は地域の方々の住まいのところに足を踏み込んでいることなので、この観光サービスを考える上でのトライアングルの中に必ず住民がいます。そこをないがしろにしたサービス、ツアー設計をしてしまうと、これは続かないです。必ず続かないです。ですから、トライアングルを考えた時に必ず地域と住民と来訪者で考えなくてはいけません。このような軸的なことは後で構わないと思いますので、まずこの文章だけで見ていくと、やはり「若者」の定義について、どのような定義で中学生議会では質問されたのか、そこをずっと皆さん議論して、もし誰か1人の像が出来上がれば、この人が何望んでいるのかというところから着想していくと良いのではないかと思いました。 |
| 濱田委員 | ： | 同意見です。観光用に何かを用意するというよりは、今ある生活の中にこの要素を付加するだけで十分で、ゼロから作るものはないぐらい魅力があるはずです。なにか大きいことをやるとか、僕らが海外で生活してる場所を珍しく思うのと一緒で、海外の方は、僕たちの生活を見たくてきているので、変に肩に力を入れずにありのままを出してくということで、気付けることがあると思います。 |
| 髙橋委員長 | ： | はい、ありがとうございます。ここでまたお考えをお聞かせ願えればと思います。 |
| 本田道也氏 | ： | 私も昨年からこの町に来させていただいてるいますが、さきほどご紹介いただいたように、町民としては1番まだ歴が浅いですので、外からの目線で、また、皆さんからさきほど聞かせていただいたたくさんの意見を聞いて思ったことを共有させてください。まず、濱田さんが仰っていた関係人口が多いというところは、やはり多くはオガールに関わっていると思います。  オガールに訪れるのは、バレーボールの研修であったり、行政としての施設の研修であったり、目的がすでにオガールを中心に始まるというところであるのと、そもそも来ているお客さんは、団体規模というところが多いので、自然と大きくなるのかなと感じます。  一方で、せっかく観光の会議ですので、皆さんのお話も聞きながら、外国人、国内問わずに観光という部分でこの町をしっかり見ると、やはりいろんな方の意見にあったように、ちょっと本気で本腰を入れて観光をやらないと見えてこないものがたくさんあると感じました。ただ、昨今で言うと、コロナもあったので、今は準備体操期間というか、それは全然まだ早くもなければ遅くもないとは思っています。  例えばですが、先日、私の宮城にいる友人が、岩手に週末を使って旅行に行きました。行き先はやはり花巻温泉だったり、中尊寺、大河ドラマの撮影で有名な藤原の郷です。それはまさに、さきほどから出ている、子どもの遊び場というところの延長線でもあるようです。  岩手県が毎年出している観光統計表というものがありますけれども、主に県内の旅行客などの情報も詳細に持っていって、それを紐解いていくと、岩手県は、隣接する山形県、宮城県からの来訪者ももちろん増えています。ただ、残念ながら、紫波町の立地を考えると、その方たちが行くのは盛岡、またはその先にある花巻などになってしまうので、越えていってしまう。  我々はちょっとその視察とか、そういった意味合いも含めてこの町に来させていただいたので、観行ポイントを重点的に廻るということが、自然の流れではあったのですが、それを近隣の県から来るお客さんが、週末どこ行こうかな、行き先を探したり何かをした時には、THE 観光というところが、多分コロナをきっかけに少し薄まっているのかなというのが、他県から来た者の目線としては1つ意見としてあげておきたいことです。このような段階というものも、積立NISAと同じように、やった分だけ財産になるものだと思います。一方で、具体的にどこから何を始めていきますかというと、実行委員会のような、コンパクトにいつシフトしていくかというような取り決めを出すべきではないかと思いました。 |
| 髙橋委員長 | ： | はい、ありがとうございます。どちら出身と言いましたか？ |
| 本田道也氏 | ： | 生まれは山形県米沢市です。高校まで山形県に居りましたので、青春18切符で東北地方は回りました。子どもの雨の日の遊び場になる屋内施設で言うと、山形県の北部に最近ドーム型の施設を作ったそうです。仙台などでも色々な新しい施設はもちろんできていますけが、それがなぜできるのかというのは、やはりいろんな意見が上がっているように、週末、イオンモールだけじゃダメだ、というところがあると思います。近場のショッピングセンターとか。  ここから仙台までは、遠くないけれど、やはり高速代とか宿泊にお金もかかりますし、一泊2日でも結構準備しないといけないと思いますので、普段づかいで子どもを連れていけるところがあるといい。若者で言うと、20代のアベックがデートする場所にしてもです。今Instagramに写真を載せることができると言われてるイルミネーションというライトが出ているところもあったりします。今はあくまでコロナ明けの準備段階の時期なのかと思っていますけれども、きちんと、いつ、どれから始めていきましょうかということを整理し、アクションを起こしていく実行委員会が大事なのではないかと思います。 |
| 髙橋委員長 | ： | はい。また、将来のことも考えながらということです。私は、例えば、夏祭りなんかを開催しますと、今言った若い方々についてですが、子ども連れさんが結構多いと感じます。顔を見ると、町内の方ではないなというような方、普段お会いする方ではないというような方々が結構楽しんでいらっしゃる。  私はそのような方々を「若者」という感じでいます。皆さん、どうでしょうか。皆さんからも意見を伺いたいと思いますし、どういうところが紫波町のターゲットとして観光を考えられるか。  いかがですか。女性の方々とか、例えば、いかがですか。若者、そういう方々をどの辺に感じていらっしゃいますかね。 |
| 石幡委員 | ： | 紫波町の住宅市場を見てみると、大体子育て世代がどんどん家を作って、古館地区も増加し、赤石が大体ピークになり、来年は落ちつくのではないかという状態ですが、小学校がこれから増築して教室が増える状態です。そういう世代が1つの塊。  それから、若者ではありませんが、我々のように他所から来て、団地に住んだ人間が退職している年代です。我々「しゃ・べーる」で対象としているのはこの年代です。この人たちが退職し、暇になって、紫波町はどういう町なのだろう？何があるんだろう？というのに興味持つということが結構多いです。  我々からすると、その人たちを対象として見ています。子どもたちとかはあまりない。今たちが考える人たちは、ちょうど小学校に入る前後の子どもたちを育てている方々から、どんどん、どんどん声が出ている。その辺が1番、紫波町の対象として考えられる「若者」ではないでしょうか。その方たちが、やはりお祭りなどに興味があるのではないでしょうか。 |
| 髙橋委員長 | ： | そうですね。 |
| 澤里委員 | ： | 子育て世代の人たちで、私の周りの方、職場が矢巾町内ですが、子育て世代の職場の方に、休みの日どこに行くかという話になった時に、未就学児に関しては、矢巾町のやはぱーくの遊び場に行くという方、室内で予約が取れるのでいきますという方がいたり、やはりイオンに行きますという方がやはり多いみたいで、「紫波町は？」と聞くと、正直なところ、行く場所がないという声が多く出ています。  私はＳＮＳでイベント情報を発信していますが、私以外の方も、割とイベント、週末にこれありますよという情報発信をされている方が複数いらっしゃいます。小学生の子どもを持つ親が1番困っているのが、土日、自分たちが仕事休みで、子どもも家にいる時に、どこに連れていったら良いかわからないという時に、ＳＮＳで、今度ここでイベントがあるという情報を見て、いろんな場所に行くという流れがあると感じています。そういう話は聞きますし、実際にＳＮＳでイベントを発信しているので、ここに行ってきましたという声も私の方にいただいているので、このようなニーズはあると思っています。  花火の時も、紫波町の花火大会の時に、花火情報をあげる方がたくさんいらっしゃった。岩手だけではなく、東北の方が「東北でここで花火がありますよ」という情報を発信されてる方がいるので、それを見て他県の方も「じゃあこの日はここでやってるからちょっと行ってみよう」というので来てくださっているのが現状です。 |
| 髙橋委員長 | ： | はい、ありがとうございます。他には何か。 |
| 菊川委員 | ： | 先ほどお祭りの話が出てましたけど、前回も同じ話しをしていたかもしれませんが、紫波町は伝統芸がたくさんありますが、それがあまりフューチャーされてないと感じます。私も福島県出身で、外から引っ越してきて、私は鍛冶町さんさと日詰秋祭りに出ていますけれど、自分も出るので、皆さんに入れていただいて、見に来てねということはしていますが、ちょっとした披露をするのは、披露する場がなければいけないし、その1回のために来てくださいというのは難しいかもしれませんが、秋祭りで言えば、もっと広域から、たくさんの人に見てもらいたい。盛岡に負けないぐらいの祭りなのではないかと思います。しかし、秋祭りはあまり情報発信されていないというか、日詰の人たちだけが少子化の中で頑張っていて、山車も毎年重くなっていくというように感じています。金山太鼓もそうでしょうし、船久保さんさですとか、神楽とか色々あるとか、田植え踊りですとか色々あると思いますが、もっとそういうものが、その神社仏閣同様にもっと認められて、みんなでみていただいて、地元の人にも、来ていただく方にも好きになっていくのが、紫波町のいいところなのではないかと思っています。やらないで言うとあまり説得感がないので、私のも仲間に入れていいただいてるます。祭りというか、伝統芸能をやっていて感じていることです。 |
| 髙橋委員長 | ： | はい、ありがとうございます。伝統芸能、確かにたくさんありますが、やはり存亡の危機です。 |
| 石幡委員 | ： | 宣伝できていないですね。教育委員会の管轄だから。そういう縦割りがある。 |
| 髙橋委員長 | ： | 我々も郷土芸能の皆様方からご意見いただいたことあります。  出場回数を増やした方がいいんでしょうと伺うと、担い手で集まる人たちがもうそんなに多くないので、大変だということでした。  芸能団体は20団体くらいあります。  金山太鼓も、佐比内地区というところですが、町内からも、子どもたちが来て叩いてるというような状況です。  そういった広くやっていくべきものと、やはり地域で、守るという感覚の方がいいのかというものとあるようですので、なかなかこれも実際にやられてる方々から意見を聞かないとわからない部分はあります。ただ、そういうのに関心ある方はですね、ぜひ、参加してほしいと思います。よくやってるなというのは、早池峰神楽さんは、すごいと思います。ただ、あまり人数は多くないようです。ですから、そういった専門的にやられているというのは素晴らしいと思います。 |
| 石幡委員 | ： | 今、10数団体ぐらいですね。18ぐらいです。 |
| 髙橋委員長 | ： | そうですね、だんだん活動する範囲が少なくなっています。 |
| 石幡委員 | ： | 金山太鼓は、郷土芸能に入っていない。郷土芸能に入ってない団体がいくらかあります。長岡さんさなど。結構、そういったところも、未整理なところがいっぱいあります。  私も福島生まれです。 |
| 髙橋委員長 | ： | 子どもたちから、中学生からこういった、一般質問が出るというようなことはね、なかなか期待が持てるという気がしますので、ぜひそういう若い方々に、ぜひ意識を高めていただいて、一緒にやっていただくという気持ちになってほしいです。  はい。あと、ご意見等々ございましたらば。 |
| 澤里委員 | ： | 郷土芸能の話ですけども、情報発信者側の話をすると、郷土芸能は、地域の住民の方で子どもが出たりして、それを映像に撮って拡散できないというハードルがあり、やりにくい部分があります。団体さんによっては、撮ってアップしてくださいというところもあります。盛岡の団体です。盛岡の方も担い手不足の問題がどうしてもあり、郷土芸能の団体の会長さんからも話しがあったのですが、なかなか担い手がいなくて困っている、ただ、どういう風に人を呼べばいいかわからないということでした。私の団体は映像に映してもいいです、解散してもいいですというのがはっきりわかる、仕組みがあると、こちらとしてもやりやすいです。 |
| 髙橋委員長 | ： | 確かにそういう団体で、顔をぼやかしてるだけでなんともならない。できればね、本当に笑顔で汗を流してるところを見てほしい。 |
| 石幡委員 | ： | 教育委員会の課題なので、郷土芸能の団体の事務局長に今の話をしたいと思います。  教育委員会でも部分的に撮り始めて記録を残そうとしていますが、それが、共通認識になってない。結構、残し始めています。プロの映像の方にお願いしています。 |
| 菊川委員 | ： | 敷居が高いのか低いのか、とっつきにくいですよね。  広げたいのか悩ましい。 |
| 石幡委員 | ： | 写真撮影ダメということで、いちいち記念撮影するためにその子たちは省いて撮影している。結構うるさいですよね。 |
| 澤里委員 | ： | 今もう小学生にスマートフォンを向けただけでも、もうマチコミメールで通知がくるような時代になっていますので、結構慎重に考えないといけないというのはあります。  ただ、やはり県外の方は、郷土芸能、岩手県の郷土芸能は本当にすごいと言っていて、沼にはまってる人がもう年間10回以上いらっしゃっている。郷土芸能を見に来ている方がいるので、ここまでやっているところはなかなかないと絶賛していただいています。 |
| 木戸委員 | ： | 郷土芸能というと山屋田植え踊り保存会のメンバーなので、お話を少しさせていただきたいのですが、私の答えですけど、郷土芸能をしている人たちはやはり見てほしいようです。  やはり昔のように、何も娯楽がなかった時は、花形みたいにみんないろんな地域を門付けして回り、本当に喜ばれて、本当に待たれていたというのがありましたが、今はどちらかと言えば、イベントに呼ばれて、アトラクションとしてという感じですけ。そういう風な熱心なファンもいらっしゃいますが、郷土芸能の人たちは、やはり資金がないと継続できません。  衣装だったり、子どもたちにおやつを食べさせたり、移動したりとか様々。  今イベントに呼ばれていくと、イベントの人たちからはお礼をもらっていますが、昔はそこにみんなで投げ花しました。  紫波町では、去年日詰平井邸で公演をやってもらった時に、その投げ花をもう一度みんなにわかってもらおうということで、教育委員会の職員や協力隊の人たちがのし袋をその場で売って、ぜひこの花を出すという文化をやってみるということがありました。そういうことも、本当にやってほしいことです。  私も違う郷土芸能の公演に行って花を出したりします。その時に名前が必ず呼ばれます。「誰々さんからいただきました、ありがとうございます」と。そうすると、ぐっとそのイベントに、郷土芸能に参加してる感じが増します。一体感が。だから、そういうことを広めてほしい。お金が欲しいわけではないですが、そういうものがないとやはり励みにならないし、実際に存続できないということを、こういう場なので言いたいと思いました。  1000円でもいいんです。本当にそういうのがありがたい、だから頑張ってやろう、そういうものなんですね。  うん。全然関係ないかもしれませんが、ここでもお願いしたいです。 |
| 髙橋委員長 | ： | 山屋田植え踊りは重要文化財でございますので、ぜひ頑張っていただきたいと思います。  やはりその地域で、その場で見たいという人たちが多いのではないでしょうか。そのイベントではなくて。 |
| 木戸委員 | ： | ちなみに、去年たまたま山屋田植え踊りの踊り初めが地域の公民館で1番長く3時間半ぐらいやる時に、うちの宿に滞在していたオーストラリア人の若いカップルに、「見に来る？」と言いましたら「行く」と言うので連れていきました。その時にその田植え踊りで作っているパンフレットを渡したら、なんとそれをGoogleで翻訳しながら見たから大体わかったと言っていました。  こちらが用意しなくても、興味があって見れば、外国人もそういうことがぐっと分かる。その紙が1枚あったことで、何もこちらは世話をしてあげなかったけれども、彼らはそれを楽しん帰りました。すごく面白かった。最後に舞台に入ってみんなに紹介したら、もう山屋のおばあちゃんたちがワッと喜んで、外国人が見に来たよということでまだ喜んで、三方よしの面白いイベントでした。私たちもまた、そういう地域で宿をやっているということの意味もまたそこに1つあったかなと嬉しい出来事でした。 |
| 高橋委員長 | ： | 素晴らしい発表でございました。いそういったものはね、1番嬉しいことです。やりがいがあるというか。  ぜひ参考にしていただければなと思います。  ただ、人がいっぱい集まる、経済的にお金を落としていただけるというのと、それから、今の話しで言えば、地域の人たちと一緒に楽しめる、そしていいものをまた再発見する、そういったものが必要ではないかなと思います。  はい、よろしいですか。参考になりましたでしょうか。  行政の方でこの第4次観光振興計画を策定するわけですので、皆さん方には、そういった事例として有効なものをぜひどんどん出していただきたいと思いますが。  今日もそろそろ時間となりますし、次の日程を事務局の方からお聞かせいただければと思います。 |
| （３　その他）  事務局 | ： | 次回の開催日程について説明 |
| 作山副課長 | ： | 以上をもちまして、第２回の第4次紫波町観光振興計画策定の懇談会を終了させていただきます。  皆様、本当にありがとうございました。 |